

# 米国6人に1人 食料難

新型コロナウイルスの感染拡大が深刻な米国で、失業や時短で収入が減り、十分な食料を買えない人が増えています。食料支援団体は今年末までに国民の6人に1人が食料難に直面すると予想しています。生活困窮者を支援する「フードバンク」には各地で市民が殺到しています。

(島田峰隆)

全米のフードバンクで50%増です。が加盟する「フィード・ワシントン・ポスト・インク・アメリカ」紙(電子版)は11月25日は、年末までに500日、南部テキサス州で0万人以上が食料難に活動する「ヒューストン・フードバンク」の活動が報じました。月に5億4800万食を配布。新型コロナ感染拡大前の平均と比べ、それによると、11月



カトリックの慈善団体による食料配布センターで牛乳や食料の入った袋を受け取る住民。11月24日、ニューヨーク市ハーレム地区(ロイター)

## 「年末までに」支援団体が警告

の感謝祭休暇を前にした週末、同フードバンクは、市内のスタジアムで食料を配布。野菜、缶詰、穀物、ハム、牛乳、そして感謝祭に欠かせない七面鳥などです。

工場労働者の男性(56)は、コロナ禍が深刻化した3月から短勤務で週3日しか働けていません。「状況はますます悪くなっている」と同紙に語りました。

配布が始まる7時間も前の午前1時ごろに、来て待つ人もおり、スリナムの駐車場には乗用車やトラックの長蛇の列ができました。開始時間を前倒しし、最終的に車7160台、徒歩の市民261人が来場しました。

「フリス・テキサス・フードバンク」のトリス・カニングハム会長は「市民はかつて経験したことのない飢餓を経験中だ。フードバンクは格差を埋める補助的な機能としてつくられたが、今では数百万の米国人の生存に



自動車で訪れた市民に食料の入った箱を配布するフードバンクのボランティア。11月24日、ニュージャージー州イーストラザフォード(ロイター)

## コロナで貧困増 背景に富裕層優遇政治

不可欠な存在となっている」と指摘しています。

フードバンクに頼らざるをえない貧困層が増えているのは政治の責任だ、との批判も強まっています。

経済的不平等に取り組み民間団体「シビック・アクション」のステイブン・パオリニ氏は、労働者を犠牲にして、大企業や富裕層を優遇してきた「トリクルダウン理論」が、事態の根底にあると批判します。これは、富裕層が富めば、その富が広く国民に「したたり落ちる」(トリクルダウン)として、金持ち減税、金融の規制緩和などを正当化する理論です。

### 政策転換を

同氏は米メディアで「経済政策の中心目標は、中間層の収入増でなければならぬ。これが民主、共和両党の指導者に求めるべき基準だ」と述べ、次期政権や議会に政策転換を求めました。

民主進歩派のロー・カンナ連邦下院議員は11月28日、ツイッターで「この状況は世界で最も豊かな国であってはならないことだ。議会にはこの危機に対処する力がある」と行動を呼び掛けた。